

首都高速道路の大規模更新・修繕及び機能強化に関する技術検討委員会(第8回)

議事要旨

日時: 2023年12月27日(水) 15:00~16:30

場所: 首都高速道路株式会社 本社 9階大会議室

出席: 委員長 前川 宏一 (横浜国立大学総合学術高等研究院 客員教授)
委員 砂金 伸治 (東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)
石田 哲也 (東京大学大学院工学系研究科 副研究科長 教授)
小根山 裕之 (東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)
白戸 真大 (国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長)
村越 潤 (東京都立大学大学院都市環境科学研究科 教授)
オブザーバー 逢坂 謙志 (日本高速道路保有・債務返済機構 理事)

議事:

1. 首都高速道路の更新計画について(案)

(主な意見)

- ・ 更新事業の実施にあたっては、長期にわたるために新しい技術を柔軟に活用して進めることが重要であり、将来にわたって安心して利用できる構造物に生まれ変わることの期待感を醸成することが重要ではないか。
- ・ トンネルの補修、補強後も、現状と異なる箇所にひび割れや漏水が発生する可能性があるため、引き続き丁寧な点検が必要である。
- ・ 点検新技術やデジタル技術の活用により、点検及び維持管理レベルの向上や効率化が図られるとともに、早期に損傷が発見される等構造物の安全性が向上することを訴えることが重要である。
- ・ 鋼構造物の腐食やコンクリート床版の劣化は、補修後においても長期的には耐久性に不確実な部分が残るため、損傷発生の要因分析や点検データの蓄積、技術開発が今後も必要ではないか。
- ・ 羽田トンネルの更新事業は、損傷の補修と共に交通課題の解決、改善の側面がある。渋滞緩和の効果について、当該箇所だけでなく首都高ネットワーク全体への効果についても検証する必要がある。
- ・ 現在の更新事業からの知見を踏まえた損傷状況の分析や、再発防止に資する既存技術の改善及び新たな技術開発等が必要ではないか。

以上